

## ブリヂストン(5108)



### － 会社予想の営業利益はコンセンサス予想に近い水準か －

17日に発表されたブリヂストン2015年12月期の決算は前期比3%増収の3兆7902億円、営業利益は同8%増益の5172億円となり、営業利益は過去最高を更新しました。しかし、売上高、営業利益とも会社計画を下回って着地しています。トラック・バス用のラジアルタイヤや暖冬で冬タイヤが計画を下回ったことが影響しました。

今期の売上高は3兆7500億円と円高の影響で1%の減収となるものの、営業利益は0.5%増益の5200億円と微増ながら前期に続いて最高益を更新する見通しです。想定レートをドル円で前期比6円の円高の115円、ユーロ円で7円の円高の127円としていることで、円高が400億円を超える減益要因となりますが、それを原材料安などでカバーし増益を確保する見通しです。

今期の会社計画の営業利益5200億円は16日時点のIFISコンセンサス予想の5486億円を下回る水準です。しかし、会社計画では販管費が前期に比べて400億円増加する見通しで、これは120億円の増加となった前期実績を大きく上回る水準です。したがって調整弁として過大に見積もられている可能性もあり、それを考慮すると会社予想とコンセンサス予想に大きな開きはないのかもしれない。

**ご留意いただきたい事項**

マネックス証券(以下当社)は、本レポートの内容につきその正確性や完全性について意見を表明し、また保証するものではありません。記載した情報、予想および判断は有価証券の購入、売却、デリバティブ取引、その他の取引を推奨し、勧誘するものではありません。当社が有価証券の価格の上昇又は下落について断定的判断を提供することはありません。

本レポートに掲載される内容は、コメント執筆時における筆者の見解・予測であり、当社の意見や予測をあらわすものではありません。また、提供する情報等は作成時現在のものであり、今後予告なしに変更又は削除されることがございます。

当画面でご案内している内容は、当社でお取扱している商品・サービス等に関連する場合がありますが、投資判断の参考となる情報の提供を目的としており、投資勧誘を目的として作成したものではありません。

当社は本レポートの内容に依拠してお客様が取った行動の結果に対し責任を負うものではありません。投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断と責任でなさるようお願いいたします。

本レポートの内容に関する一切の権利は当社にありますので、当社の事前の書面による了解なしに転用・複製・配布することはできません。

当社でお取引いただく際は、所定の手数料や諸経費等をご負担いただく場合があります。お取引いただく各商品等には価格の変動・金利の変動・為替の変動等により、投資元本を割り込み、損失が生じるおそれがあります。また、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化等により、投資元本を割り込み、損失が生じるおそれがあります。信用取引、先物・オプション取引、外国為替証拠金取引をご利用いただく場合は、所定の保証金・証拠金をあらかじめいただく場合がございます。これらの取引には差し入れた保証金・証拠金(当初元本)を上回る損失が生じるおそれがあります。

なお、各商品毎の手数料等およびリスクなどの重要事項については、「[リスク・手数料などの重要事項に関する説明](#)」をよくお読みいただき、銘柄の選択、投資の最終決定は、ご自身のご判断で行ってください。

マネックス証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第165号  
加入協会: 日本証券業協会、一般社団法人 金融先物取引業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会